

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100666
法人名	有限会社やわらぎ
事業所名	グループホームいくし
所在地	愛媛県松山市生石町472番地
自己評価作成日	平成26年10月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で季節感が味わえる環境づくり。 ・利用者、家族、職員が家庭的な雰囲気の中で互いの考えや相談できる関係づくりを目指している。 ・連携医療機関との日常的な連携、相談ができる関係づくり。 ・グループホームで安心して最後まで暮し続けることができるケア。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員の言葉遣いが慣れ合いになっているような場面があれば、職員同士で注意し合ったり、入浴中には、脱衣場入口の扉の開閉には配慮されている。夜間のおむつ交換やポータブルトイレの介助時には、居室の扉を閉めるよう気を付けている。</p> <p>職員は、利用者からの希望をできるだけ普段の会話から聞き取りたいと考えており、日常のさりげない会話も大切にしている。不穏状態が続く利用者には1ヶ月間、24時間シートで利用者の生活の傾向等を知ることに取り組みました。お好きな野球中継を見たり、ラジオを聞く時は、穏やかに過ごし、排泄前に特に不穏になることが分かり、ケアに活かしている。普段の何気ない会話から、生活歴を知ることあり、利用者個々にまとめてファイリングしており、職員間で共有している。又、日々の介護記録には、本人との会話の内容も書くようにされている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームいくし

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

田村 富美子

評価完了日

2014年 10 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 日々の介護に繋がるように努めている。日常的には立ち返れていない。	
			(外部評価) 新入職員は、法人全体で行う新人研修の際に理念について学ぶ機会がある。これまで自己評価表をもとにして、理念に基づくケアができていないか等を確認していたが、職員から「評価表の項目が多く負担になる」という意見があり、現在、法人で項目を減らした「振り返りシート」を作成しており、来年1月から取り組むことになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な関わりが殆どなくなっている。夏祭りを開催し、地域との関わり場を設け交流に努めている。	
			(外部評価) 敷地内にある小規模多機能居宅介護事業所と合同で行う夏祭りや餅つきの際には、近所の方も参加されている。事業所は、建物2階へ移転したことで、近所の方から、「以前の方が訪ねやすかった」と言われることもあり、近所の方の来訪が少なくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通じて認知症高齢者のグループホームの生活の実際を伝えようとしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	概ね2ヶ月に1回開催している。利用状況や活動報告、また毎回 テーマを決めて意見交換をしている。特に地域の方の参加が増え、また、民生委員の方からも地域の実情、情報が入る環境ができてきた。しかし、利用者の生活に活かせるまでには至っていない。	
			(外部評価)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	担当の課ごとに利用者個別に必要なに応じて行っている。運営推進会においても情報交換の場になっているが、毎回、参加される職員の方が異なると関係はつくりにくい。	
			(外部評価)		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	緊急止む得ない状況で2名身体拘束を行っている。ご家族への説明。同意と期間を決めての実施と毎月のモニタリングを実施、代替方法などの検討を行っている。事業所内の研修も行っている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			事業所内で研修の場を設けて、ケアの振り返りを行っている。不適切な言動がないとは言えない。職員間で互いに話し合えない場合は管理者と職員との面談を実施。スタッフ会でも話合う機会はある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			現場の職員が研修に参加し、学ぶ機会が持てていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時に行えている。契約後であってもその都度、説明をすることを家族に伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			利用者とは日々の会話から、家族とは近況報告時に意見、要望は聴くように努めている。ケアプランの更新時にも必ず聴けている。月1回のスタッフ会に法人代表者もほぼ、毎回出席しているので情報を把握する機会ともなっている。共有できている。必要に応じて反映できている。	
			(外部評価)	
			ご家族からは、現在、「日中はできるだけ起きて過ごして欲しい」「体調のこともあるが、好きなものを食べさせたい」等、個々の暮らし方についての要望等が多いようだ。面会時にご家族が、お好きなお饅頭を持って来られ、楽しみにされている利用者もある。	今後さらに、ご家族と一緒に活動するような機会や家族間のつながりを作るきっかけ作り等を工夫して、ご家族の意見や要望等もお聞きしながら、協力し合って利用者の暮らしを支えていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			十分とは言えないが、個別にまたは月1回のスタッフ会に法人代表者がほぼ、毎回出席しているので機会は増えている。	
			(外部評価)	
			2ヶ月に1回の事業所内研修や年5回の法人内研修はあるが、今年度は、外部研修の参加は少なめであったようだ。今後は、管理者が予定を決め、職員個々に受講できるよう、すすめたいと話しておられた。職員から「朝の申し送りには管理者も参加して欲しい」と希望があり、管理者は、小規模多機能事業所と兼務しているが、その後からは、ほぼ毎日参加されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			就業規則の整備を実施している。しかし安定的に人員の確保が難しい場合もある。	
			(外部評価)	
			年間計画を立て実施しているが今年度は参加者が減少している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			年間計画を立て実施しているが今年度は参加者が減少している。	
			(外部評価)	
			相互研修の機会があったが参加できず。2ヶ月に1回は事業所ないで研修報告も含めて勉強の機会は設けている。法人内の交流は時々ある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			相互研修の機会があったが参加できず。2ヶ月に1回は事業所ないで研修報告も含めて勉強の機会は設けている。法人内の交流は時々ある。	
			(外部評価)	
			相互研修の機会があったが参加できず。2ヶ月に1回は事業所ないで研修報告も含めて勉強の機会は設けている。法人内の交流は時々ある。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に事前面談を行い、情報収集に努め、安心して生活できるように努めている。日々のケアの中でも職員間で情報の共有に努めている。	
			(外部評価)	
			入居前に事前面談を行い、情報収集に努め、安心して生活できるように努めている。日々のケアの中でも職員間で情報の共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			ご家族の思いや不安など丁寧に聴くように努めている。事前面談、入居後も機会を捉えては忌憚なく、互いに情報を伝えるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			十分ではないが必要と判断する時は相談の上、他のサービスが利用できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			協力していただけることは伝えるよにしている。協力者として考えている。できることは一緒に行ったり、お願いしたりする。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			協力していただけることは伝えるよにしている。協力者として考えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			いつでも面会や行き来ができるようにしている。遠方の家族に対しては便りを送ったり定期的に電話をかけて、家族で話す機会がもてるようにしている。	
			(外部評価)	
			ご家族からの手紙に返事を書く方には、職員が紙とペンを準備して、事業所前にあるポストまで付き添われる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が媒介となって機会をつくったり、自然に係わり合いが持っている状況で見守る。孤立にならないように努めているが逆に関係が悪化しないためにパブリックな場所では互いの居場所に配慮をすることも多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡退所されてからも関係が続いている家族もあるが、経過のフォローまでには至っていない。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 主にケアプランの更新時には情報の収集をしている。また意向が把握困難な状況にはカンファレンスの場等で本人本位の検討に努めている。 (外部評価) 職員は、利用者からの希望をできるだけ普段の会話から聞き取りたいと考えており、日常のさりげない会話も大切にしている。不穏状態が続く利用者には1ヶ月間、24時間シートで利用者の生活の傾向等を知ることに取り組みされた。好きな野球中継を見たり、ラジオを聞く時は、穏やかに過ごし、排泄前に特に不穏になることが分かり、ケアに活かしている。普段の何気ない会話から、生活歴を知ることもあり、利用者個々にまとめてファイリングしてあり、職員間で共有している。又、日々の介護記録には、本人との会話の内容も書くようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のツール等も活用して情報収集の把握と職員間の共有に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりを日常の関わりの中で観察しながら、家族からも情報収集し、合わせて把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人、家族に意向をお聴きし、また職員からの提案も含めて介護計画を作成している。家族がケアプランを作成された方もいた。	
			(外部評価)	
			毎月のカンファレンス時、職員全員で話し合い、モニタリングを行い、3ヶ月毎に介護計画を見直している。見直し時には、ご家族にも暮らし方やケアの希望を確認されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			記録の方法の検討もしながら、ケアをしながらの記録は非常に大変ではあるが利用者、家族、職員の言葉や行動に加えて状況をより詳しく書き留めるようにしている。時系列で記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			訪問マッサージや訪問理・美容等、利用者本位に対応して貰えるサービスの選択ができるよう、情報収集したり、手配をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			近所のスーパー、パン屋、理髪店などの利用や地区の民生委員の方や、自治会長さんとの関わりを大切に考えている。医療も地域資源と捉えて連携を蜜にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 家族が希望する場合はかかりつけ医と話し合いの場を設け、納得の上、適切な医療が受けられるようにしている。</p> <p>(外部評価) 看護師資格を有する職員が中心となり、かかりつけ医との連携を図っている。状況やご本人の希望によっては、訪問歯科や訪問マッサージ等も利用できるよう支援されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ホームの看護職員や協力医院の看護師に相談しながら、健康管理を行っている。利用者の状況を相互に共有する為には意思疎通の課題を感じることはある。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 情報提供やカンファレンスの開催などで情報を共有するよう努めている。入院時は職員が交代で面会し、状況把握や、環境の変化に対するリスクの軽減に努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居の契約時に事業所の看取りにおける指針の説明と本人、家族の意向を聴き、書面にのこしている。またその意向については変化に応じて対応できるように家族に話をしている。また、その旨を協力医院にも伝えている。その他、地域の関係者を巻き込んだの取り組みには至っていない。</p> <p>(外部評価) 管理者は、「看取りを特別なこととせず、自然な形で支援したい」と考えており、現在、終末期のあり方については、入居時、利用者やご家族には事業所内でどこまで対応できるかを説明して希望を確認している。その後、看取りの状況になってきたら、再度、意向を確認している。最近、100歳を超える方の看取りを行った事例がある。看取りの状況になった時、医療機関へ入院する選択肢もあることも含めて説明したところ、ご家族は事業所での看取りを希望され、最期はご家族と一緒に見送られた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急マニュアルの作成はできているが定期的には行えていない。指示系統は職員間で周知できていると思う。実践力の面では新人職員の指導教育がより課題。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルは作成しているが年2回の防災の訓練でも課題が山積、訓練の開催の回数を増やす必要があるが、現実にはできていない。	
			(外部評価) 建物内のシェアハウスと合同で、年2回、避難訓練を実施している。地域の方にも参加いただき、実際にベランダまでの避難や1階の駐車場まで階段を使っての避難誘導を一緒に行ってもらい、「なかなか大変じゃ」と感想があったようだ。消防署からは、初期消火の大切さや地域の力を増やすこと等についてアドバイスがあった。事業所の立地条件や利用者の状況等も踏まえて、今後も避難訓練を繰り返し行い、課題の解決に向けて工夫ある取り組みをすすめていかれてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に排泄時の声掛けへの配慮に欠けることが多い。利用者の前であることに配慮しない言動もあり、日々の反省が必要。親しみと子ども扱いするような言動との区別が付かないようこともある。	
			(外部評価) 職員の言葉遣いが慣れ合いになっているような場面があれば、職員同士で注意し合ったり、入浴中には、脱衣場入口の扉の開閉には配慮されている。夜間のおむつ交換やポータブルトイレの介助時には、居室の扉を閉めるよう気を付けている。職員はさらに、「利用者に対する接遇のスキルをもっとレベルアップしたい」「利用者が落ち着いた生活ができ、ここに来て良かったと思ってもらえるような、穏やかな対応をしていきたい」と話されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 選択しやすいような雰囲気や言葉掛けの仕方に努めている。選択視のないような言動もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの利用者の生活のペースは大切にしている。希望に添ったものと職員側の意図や想いと必要なこと家族の意向もありとそうでないこともある。何かが出来ているかと言えないこともあり、退屈な時間が流れていることも多い。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気をつけている。季節にちなんでも衣替えも本人、家族とも相談して行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の外注により、献立のマンネリ化の改善には至っていない面はあるが好みや食事形態への配慮はしている。おやつ作りなどで工夫はしている。	
			(外部評価) 朝食の食材は利用者と買いに行き、事業所で作っており、そうめんの好きな利用者の希望に合わせて、みそ汁にそうめんを入れることもある。おやつ時間は、職員も一緒に座ってお茶を飲む等して、ゆっくり過ごす時間を大切にされている。現在、昼・夕食は、業者から献立に沿って食材が届くサービスを利用しており、法人内の厨房で調理したものが届くが、残食があることや献立がマンネリ化していることから、食材の外注の変更を検討していた。今後、利用者やご家族の希望等もお聞きしながら、利用者主体の食事を支援できるような取り組みをすすめていかれてほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 記録を日々とり、職員間での共有し状況把握はしつつ、と変化に応じて家族への報告、相談も行い、対応に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 介助の必要な方は毎食後、行っている。個々の状態に応じて行っている。自立している方必要に応じて声掛けは行っている。口腔ケアの重要性は職員間で共有できている。新人職員の指導に注力が必要。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 介助が必要な利用者の排泄パターンは理解しつつ、紙パンツ、オムツを使用している方もトイレ誘導を行っている。気持ちよく排泄できるように努めている。頻回訴えのある人への対応にばらつきがある。対応の統一ができていない。特に夜間。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握し、日中は頻回にトイレ誘導の声掛けをしている。居室にポータブルトイレを置き、夜間時に使用する方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便のチェックは毎日行っている。パターンも把握に努めている。利用者によっては薬での排便コントロールを要しているが自然排便に向けて水分摂取にも注意している。運動については十分取り組めていない。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴していただいている。入浴の仕方についての本人の好みまでの配慮は十分とは言えない。家族の協力も得ている方もいる。	
			(外部評価) 利用者個々に週2回入浴できるよう支援されている。入浴時、こだわりのシャンプーを使用する方もある。入浴を拒む方には、ご本人がトイレに行く時等、移動時を捉えて声かけして入浴につながるよう支援されている。それでも、入浴に気が向かない場合は、ご家族から声をかけてもらったり、ご家族が温泉に連れ出すような場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ほぼ出来ているが、本人の意向を優先すると臥床の時間が一日の大半になってしまうため、言葉かけや気分転換を図るようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 概ね行えている。薬の変更や新しい処方があった場合は残職員で周知し、薬剤表は利用者ごとにファイルしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活に活かせるように本人の嗜好や趣味、好きなことの把握に努めている。利用者の重度化で外出の機会が減った時期もあったが少しずつ機会が増やせるようになった。買い物と一緒にいたり、意向に添えるように職員が代行している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 要望には意向に添えるように努めているが訴えない利用者は職員が機会をつくるように誘いかけの言葉の工夫や場所を選んでいる。	
			(外部評価) 普段は、近くのパン屋やドーナツショップに出かけたり、利用者の希望で日用品の買い物に近くのスーパーやドラッグストアへ行くこともある。春には菜の花や梅を見に出かけたり、回転寿司等で外食したり、法人の畑へジャガイモ堀に出かけることもある。特に、大衆演劇の観覧は、とても喜ばれたようだ。今後さらに、利用者が外出して地域の方達と交流したり、楽しめるような機会作り等も工夫を重ねていかれてほしい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理は困難ではあるが小額ではあるが所持されている方もいる。殆どが家族、事業所が管理している。金銭の支払いは小額は本人にして貰うようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方の家族との電話の機会をもったり、ホームでの生活の写真を送って近況報告をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 室内外にできるだけ、植物を置いたり、育てるようにしている。利用者の方と行っている。季節感を出す壁面の環境構成をしている。得意な職員がいて、中心になって利用者と一緒に制作することもある。混乱を招くようなものは置かないようにする。猫も飼っていて利用者によっては心地よい環境になっている。</p> <p>(外部評価) 南側ベランダからの採光で居間は明るい。ベランダで時々お茶を楽しまれている。調査訪問時、居間のテレビを見て過ごされる方や、ソファでは、利用者同士でお話されている様子が見られた。壁面には手作りの日めくりカレンダーを掛けており、職員が声をかけると利用者の方がめくってくださる。又、毎朝、廊下のモップがけやソファの上の掃除をすすんで行う方や、事業所で飼っている猫の餌やりや水替えをされる方もある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者同志の関係がどうかについては十分に把握しつつ、テーブル席やソファなど配置に工夫をしている。こだわりのあるものは混乱が無い限り、利用者の居心地を重視している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者によっては家族の写真や馴染んだ家具、日用品をおいてもらったり、家族が持参された植物も育てたりしている。掃除や整理整頓は職員が行っている。本人のこだわりは損ねないように配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室には、アルバムや雑誌等が用意されており、ご家族来訪時に撮った写真や写真付きハガキが壁面に飾っているところもあった。南向きの居室には出窓があり、ご家族が持ってきてくださった鉢花を大切に世話している方もある。ダンスに、ご自分で「下着」「靴下」「ズボン」等と分かるよう記している方には、入浴前に着替えを職員と一緒に準備できるよう支援されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 区別のつきにくい場所や段差のある場所などは目印になるものを配置、または表記している。トイレ、浴室等。転倒や徘徊のある利用者についてはさりげなく音のなるものをカーテンや出入り口に取り付ける工夫をしている。</p>	